

# Library Mate

## 短期大学図書館ホームページ開設

図書館長 板垣 弘子

実践女子学園が創立100周年を迎えた今年、短期大学図書館は、大学図書館に次いでホームページを開設しました。これによって、21世紀の情報化時代に向けての充実は、さらにはかれることでしょう。

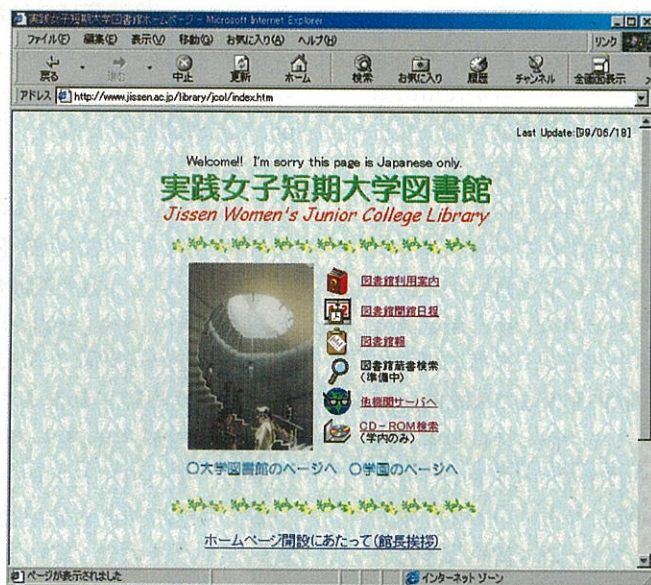
例えば、特色あるコレクションの公開など外への情報発信と同時に、図書検索など外部からの情報をいち早く知ることもできます。居ながらにしてあらゆる情報を集められ、所在確認をした上で必要なデータの調査が出来る便利さは、実に時間の有効活用であり、新しい時代の新しい図書館像の具体化といっても良いでしょう。

私のような昔人間は、機械化による情報の早さに隔世の感にひたりながら、頭の切り換えにわが身を励ます昨今でもあります。

なお、学園創立100周年を記念して、図書館では「下田歌子電子図書館」を作成しました。これには下田先生に関するさまざまなデータが収められています。なかでも、現天皇陛下生誕時('32)に下田先生が祝詞を述べられた肉声や、昭和初期の実践女子学園の運動会風景などは、貴重な資料といえましょう。昔を知る上でも情報化は大いに役立っているのです。詳細は別頁(下田歌子電子図書館)をご参照ください。

また100周年記念の一環として、すでに5月末から来年1月末まで13回にわたり、大学、短大両図書館で1ケース2~4、5点ずつですが下田先生および実践女子学園100年のあゆみに関する資料(遺品、短冊、卒業証書、制服など)の展示も行っています。

どうぞ合わせてご覧ください。



短期大学図書館アドレス <http://www.jissen.ac.jp/library/jcol/>

# 大英図書館の明治本のことなど

短期大学 国文学科

教授 小林 修

先日、市川渡(清流)の『尾蠅欧行漫録』を読んでいたところ、イギリスで大英博物館を見学し、図書室や日本書籍の『伊勢物語』などを見たことが記されており印象に残った。市川は文久2年(1862)の遣欧使節に随行した人物で、これはその折の見聞記だが、この年大英図書館の日本書籍は、まだそれほど充実してはいなかった。シーボルトやアーネスト・サトウの蔵書が寄贈されるのは、日本の時代で言えば共に明治になってからのことである。とりわけアーネスト・サトウ旧蔵の6000点に及ぶ貴重な日本書籍は注目に値するが、そのサトウが市川の『尾蠅欧行漫録』を英訳している事実も興味深い。因みに現在では、ケネス・B・ガードナー編『大英図書館日本古版本目録』(1993)により大英図書館の貴重な日本書籍の存在は広く知られている。

ところで、私も先年海外研修でイギリスに滞在した時、市川と同じように貴重な展示資料は一通り見学をした。しかし、日本近代文学専攻の私にとっては、正直なところ、これら貴重な古典籍はそれ以上の関心を持つ対象ではなかった。むしろ明治以降の雑書の方に興味があったし、何よりもリーディング・ルームが使用出来ればとの思いから、ともかく閲覧許可証(リーダーズ・パス)を申請した。この時、私の3ヶ月の滞在期間に対し、5年間有効の閲覧証を発行してくれた。(2000年迄有効だから来年まで使用可。)このいかにもふところの深いイギリスらしい処置には感心させられた。また請求図書は請求用紙をカウンターに出し、自席に戻って待っていれば、係員が私の座席まで本を持って来てくれるのである。このサービスは日本の図書館とは大違いで本当に感激させられた。さらに、大英博物館とは別館になっているオリエンタル&インドオフィス(テムズ河をはさんで南の方にある)を訪れてみると、居合わせたハミッシュ・トド氏が私の関心をすばやく理解し

てくれて『JAPANESE PRINTED BOOKS&MSS』(LONDON 1898)という目録をすすめてくれた。これは約100年前に編まれた(编者不明)蔵書目録で、幕末から明治20年頃までの日本書籍に簡略な解題を付したものである。ちょうど夏目漱石が留学した頃(1900~1903年)大英図書館にはどのような明治期の日本書籍があったかを知ることが出来るきわめて興味深い目録である。もともと漱石は大英図書館の閲覧手続きはしなかったようだし、イギリスにある同時代の日本の雑書に興味など持っていたはずはない。彼は猛然と洋書を買漁り、下宿に籠城して読みふけていたようである。だが私には明治期の雑書は興味深い。漫然とカードを操ってみる他ない(実際カードを操ってみたが、最近の日本書籍も大量にふくまれている中から興味深いものを探し出すのは至難の技である。)と思っていた私にとって、この百年前の蔵書目録はそれ自体が貴重で有難いものであった。その中から珍しい一例を挙げれば島崎正樹『栄樹葉』がある。島崎藤村の父親であるが、こうした書物の存在は日本では知られていない。英文の説明は<“Sakaki Leaves” A prayer-book pp.7 [1875?]>とある。実物を請求してみると折本仕立て(7.5×18cm)7丁の祝詞である。紺の表紙に赤い題籤。「栄樹葉」の文字の下に「天神地祇及産土神諸乃神多知袁拜辞」とある。平田派の国学者であり神官も務めた正樹の一面を知る資料である。キリスト教の祈祷書の伝統がある国ゆえに、こうしたものも書物として収集され保存されたものであろう。奥付や刊記はないが、(1875?)明治8年と推定されている。また松田正助編『戊辰以来新刻書目一覽』(明治7年)も先頃拙論を草したゆえに興味深い。その他、私の研究領域にとって貴重なものもあるが、紙幅の都合で稿をあらためる他ない。



## 学生に薦める本

大学 生活環境学科

助教授 槇 究

### 私の薦める一冊の本

D. A. ノーマン(野島久雄訳) 「誰のためのデザイン？」 新曜社 1990  
(大学図書館所蔵501.8-N84)

学生だった頃、同期の女の子とこんな会話をしたことがある。

「金縛りになったことある?」、「一度だけ。」  
「そのときどう思った?」、「金縛りとは脳が覚醒していて体が覚醒していない状態だと何かで読んでいたので、2分ぐらい待ってから体を動かした。そうしたら、動いた。それで、本に書いてあることは正しいとわかった。」

非常に冷静な反応に感心されると思いきや、「そんな感動のない生活してて、何が楽しいの!？」と揶揄されてしまった。

いや、違う。こんな私でも、年に数度、本当に感動することがある。ただ、それは大体において、予測と違う研究結果が出たとき(これがまた多いんだな、実は。)とか、本を読んでいて、「こんなもの見方があったのか。こんな考え方もあるのか。」と気づかされたときとか、まあ、それらがほとんどである。ということで、本というのは、私にエクスタシーをもたらしてくれる可能性の高い媒体なのである。電車の中で、エクスタシーに浸っている私に会ったら、声を掛けてはいけない。

さて、本日紹介する一冊は、この大学に赴任してすぐの頃に読んで、基礎造形論という授業のネタにしているものである。

ノーマンは高名な認知心理学者であり、認知心理学をやっているという人がこの名前を知らなければもぐりである。有名な大学を渡り歩いてきたのだが、最近大学を辞めてしまった。大学で研究をしても、現実世界を変化させる力が乏しくてつまらないからだそうである。それで、Apple Computerに再就職したのだが、その後どうなったかは、寡聞にして知らない。

彼は非常に多分野に渡って活躍してきたが、

この本を書くきっかけになったのは、機械と人間のインターフェース、特に原子力施設とか飛行機とかのシステムにおけるフェイルブールの研究に関わったことだろう。

飛行機が落ちると、フライトレコーダーが回収され、操縦士がミスをしたのが原因だなどと言われることが多い。でも、果たしてそうだろうか。ミスしやすい設計が問題なのではないだろうか。そういう観点から、システムを眺めることが事故を減らすことにつながるはずだ。そういう信念の下、彼はインターフェースの研究に取り組んだのである。

そして、人はすべてを知識として持っているのではなく、身の回りの環境を解釈して様々な情報を取り入れながら判断を下していることに気づき、誤った解釈を引き起こしにくい環境の特徴を明らかにしていったのである。

と言うと難しそうなのであるが、この本の中で彼は、身の回りに普通にあるモノを通して言いたいことを語るという姿勢に徹している。電灯のスイッチとか、スライドプロジェクターとか、ドアの押し引きとか、そういう身近なところにも操作の間違いは存在すること、それはデザインによって相当部分防げられることをわかりやすい文章で教えてくれる。

デザインは美しければいいと思っている人、どうしたら使いやすいデザインになるのか悩んでいる人、自称機械オンチの人、そういう人に一読を薦める。エクスタシーを味わえること、請け合いである。

なお、続編として、同じ出版社から『テクノロジー・ウォッチング』という本も出ている。興味が湧いたら、これも読んでみよう。

D. A. ノーマン(佐伯胖監訳)「テクノロジー・ウォッチング」 新曜社 1993  
(大学図書館 504-N84)

700

# 100周年記念展を終えて

茂木 コウ

60周年、70周年、80周年と記念展は百貨店を会場とし、60周年を除いて下田歌子展であった。

100周年記念展は新校舎を会場とすることに決定したので、視点を変えて百貨店ではできなかった学園100年の歴史を主とした展示を行うことにした。もちろん下田歌子なくしては実践はあり得ないので下田歌子の部は華やかな展示を心がけた。女子教育者というだけでなく、女としての情熱がほとばしる猛雄への恋文を翻刻付で展示した。何といっても人気があったのは、図書館員製作の下田歌子電子図書館である。ディスプレイの前の椅子には常に誰かが座っている状態であった。



学園100年のあゆみの部は草創期から現在にいたるまでの資料の展示で、文献が多く目を楽しませる物が少なく見てくれないのではないかと心配だった。しかし、清国留学生部では中国革命の關志秋瑾女史についての質問があり、幼稚園では自分の在校時代にあったはずなのにどこにあったか知らなかった等、それぞれの時代に自分の思い出を重ねて興味深く見入っていた。卒業証書にもその時代が色濃く反映されていると感じている様子であった。制服の変遷では初期の制服を除いて、高等学校から拝借した物で現在着用の制服以外は、被服科の先生のご指導により生徒が仕立てた複製品である。初期の制服は生徒の服装の華美に流れることを避けるため、創立期より着用したもので上下一

続き、木綿地に細かい矢絣の上張りである。当時は歓迎されなかったようであるが現代の若い人が着てみたいという程のしゃれた物である。大正12年から着用された制服は夏・冬ともワンピースで、これは知らない人が多かった。ご年配の卒業生で私これを着たけれどももう少し重みがあったとおっしゃったが、それは生地の子でせいであろうと思われる。当時の夏服は水色銀ガムであったが、複製は水色綿ブロードで作られている。昭和6年より着用の制服はツーピース型、昭和14年から現在のセーラースタイルになっていった過程が、実物・複製によってみることでできたと大変よろこばれた。今回の展示会で感じたことは、過去の資料、創立期明治32年から昭和初期の資料は先輩たちの努力によって収集、整理されているが現代の資料が少ないということであった。下田資料は古書店等からの購入、または有志の方々からのご寄贈により増加しているのだが、学園資料は新しい物が収集されていない。今迄は下田資料も学園資料も渾然としていてすべて図書館で収集整理していたが、100年を機として学園資料室を設置し、一環した収集・整理・保存を行うべきであろう。さもないと資料は散逸してしまう恐れがあり、後世に悔を残す結果ともなる。

実践女子学園100周年に当り、記念事業の一環として「下田歌子と実践女子学園100年のあゆみ」を開催することができたことを喜び、ご協力下さった多くの方々に感謝する次第である。

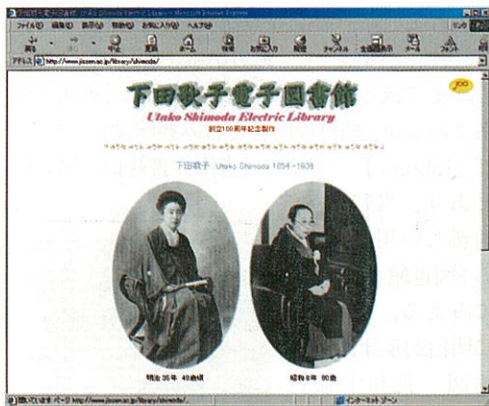


創立100周年記念製作

# 下田歌子電子図書館

創立100周年を記念して、大学図書館では、「下田歌子電子図書館」を製作しました。

今回は操作性や汎用性を考慮して、インターネットホームページ(HTML)の形式で作成しました。「電子図書館」は、香雪記念館で1999年5月11日～15日にかけて行われた『下田歌子と実践女子学園100年のあゆみ』展で併設展示されたほか、現在図書館で公開中の『下田歌子電子展示』で見ることができます。また、大学図書館ホームページ上でも公開しています。(アドレスは<http://www.jissen.ac.jp/library/shimoda/>です。ただし現時点では、外部からデータベースを利用することはできません。)



[下田歌子電子図書館トップページ]

## 下田歌子電子図書館の構成

### 1. 下田歌子ヒストリー

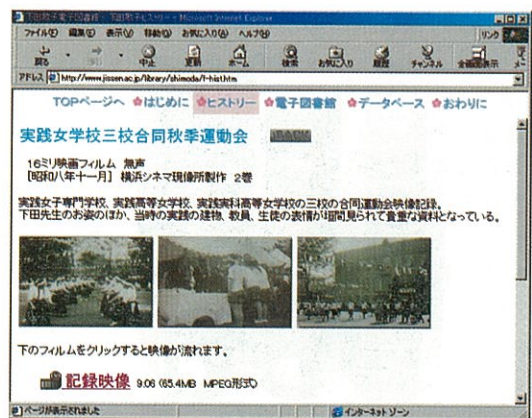
『下田歌子関係資料総目録』の略年譜を利用して制作しました。これは、下田先生の業績の一部を、各種資料をまじえて紹介したものです。特に、貴重な実践女学校三校合同運動会16mmフィルム、下田先生の喜寿記念に際して所感を述べているレコード等の映像や音声資料を視聴することができます。

### 2. 下田歌子電子図書館 ー下田歌子と女子教育ー

下田先生がどのように女子教育を考えていたか、また、創立から100年たった実践女子学園に下田先生の考えがどのように反映されているのか、下田先生の教育に関する著作と一部ではありますが本学教員が書いた下田女子教育に関する論文などを全文掲載しています。

### 3. 下田歌子データベース

『下田歌子関係資料総目録』(実践女子大学図書館1970年刊)のデータを900件ほど電子化し、下田歌子資料データベースを構築しました。本学所蔵下田歌子関係の資料と、学園史関係の資料を検索できる資料検索。雑誌・新聞・図書などに、下田歌子が執筆した論文・随筆などを検索できる著作文献検索。雑誌・新聞・図書などに掲載された、下田歌子に関する論文・記事などを検索できる参考文献検索の3種類の検索が可能です。データは今後も継続して入力する予定です。



[下田歌子ヒストリー]

# 幕末・明治期英和・和英辞書

古典籍紹介 2

大学 国文学科

教授 湯 浅 茂 雄

本学所蔵の①『改正増補 英和对訳袖珍辞書』（慶応3）は、文久2年初版本の再版本である。洋装半裁本と袋綴本とがあるが所蔵本は後者である。文久2年初版本（堀達之助ら編『英和对訳袖珍辞書』）は近代英和辞書の魁であり、これをもとに明治期に多くの英和辞書（いわゆる袖珍辞書系）が成立した。再版には現在でも複製出版はなく（初版は秀山社の複製がある）、本書を所蔵することの意味は小さくない。また袖珍辞書系で本学の所蔵にかかるものに②日本薩摩学生前田正毅・高橋良昭『改正増補 和訳英辞書』（明治2、俗に「薩摩辞書」）、②をさらに増補した③『大正増補 和訳英辞林』（明治4）、④開拓使学校長荒井郁之助『英和对訳辞書』（明治5、俗に「開拓使辞書」）、⑤岸田吟香『和訳英語聯珠』（明治6）、⑥佐々木庸徳『明治大成 英和对訳字彙』（明治18）、⑦『大成増補 和訳英辞林』（明治19、同盟社）などがある。

②は『袖珍辞書』をもとに、英語の見出しにカタカナで発音をつけ、訳語の漢字にルビを振ったことが世に迎えられ、上海で印刷した2000部はすぐに底をついた。そのため増刷を図ったのが③である。単なる増刷ではなく、見出し語や訳語を改訂し、発音にはカタカナのかわりにウェブスター式発音記号を新しく採用する。④は③を木版刷にし、付録を増補したもので、開拓使の全生徒に貸与を図ったもの、⑤は『袖珍辞書』や②、またロプシャイドの『英華字典』を参考

にしたもの、⑥は①をもとにし、⑦は②の翻刻本（現代でいえば海賊版）である。これらからも①や②の影響が明治中期にも及ぶことが知られるのである。

また⑧柴田昌吉・子安峻『附音挿図 英和字彙』（明治6、初版、所蔵本は原装）も時代を画した辞書であり貴重である。本書の影響下に成立した辞書も多いなかで⑨井波他次郎『新撰英和辞典』（明治18、雲根堂）は、地方出版（金沢）のためか、これまでほとんど言及がない。確かに『英和字彙』系であるが、独自の内容を含み興味深い。たとえば「Library」の訳語に「書庫。書籍館。図書館」とあり、当時比較的新しい用語である「図書館」がすでにみえる。ちなみに明治20年刊『附音挿図 英和字彙』第3版にも訳語「図書館」は見出せない。



資料⑨の「Library」

和英辞書では、ヘボンの『和英語林集成』に関して、以下の版をまとめて所蔵することは貴重である。⑩『和英語林集成』（慶応3年、初版）、⑪『和英語林集成』（明治5年、再版）、⑫『改正増補 英和和英語林集成』（明治19年、第3版）⑬『JAPANESE-ENGLISH AND ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY』（1873、ニューヨーク版）である。⑭『和英語林集成』（明治20、日盛館）も所属するが、これはヘボンの初版の翻刻本（海賊版）である。このような翻刻本も辞書の流布を考える際には貴重な資料である。

以上は本学の所蔵する幕末・明治期の洋学資料中、英和・和英辞書類約50点の一部の紹介である。これらは英語側からは日本英語学史の資料となるが、同時に日本語側からは日本語の登録簿として、国語史とりわけ語彙史の第一級の資料となるものである。また、文化史の資料としても有効であろう。蔵書の活用が期待されるのである。



右から本文中紹介資料⑩②⑨

## 『館員の横顔』

図書館へのお誘い

堀 美樹

「お薦めの本」を読むのは楽しいことです。面白そうなコメントや、こんなに感動しました！といった感想と一緒に、新聞や雑誌などに紹介されている本を読むのが、最近のマイブームです。普段、あまり手にしないジャンルの本との出会いもあり、読書の幅が広がります。

試しに、友達に好きな本を紹介してもらって読んでみて下さい。お薦めの一冊を読むことで、友達の今まで知らなかった意外な一面を知ることができるかもしれません。

人に薦めたいと思う本がありますか？より多くの本との出会いを求めて、是非図書館へ足を

運んで下さい。学生時代に会う本は貴重です。自分の将来や進む道を決める手掛りが見つかる可能性も充分あるからです。

落ち着いた雰囲気のある自由な空間。そこにただずんでいるだけで、誰でも知的なヒトになったような気分が味わえる場所、図書館。4月からスタッフに仲間入りし、早く一人前になりたいと頑張っています。みなさんと直接対応できるカウンター業務が特に好きです。初めの頃は、困った顔をした学生さんに声を掛けられると、思わず身構えていましたが…。どんどん仕事や知識を吸収し、頼れる図書館員を目指し努力していきます。

この夏、夢中にさせられ、幾度でも読み返したくなるような、あなたの「お気に入り」との出会いがあることを願っています。

## Library Mail

[大学図書館]

閲覧カード全廃とAVブース設置について

大学図書館では、3月いっぱいまで和書廻り及入力が完了しました。全ての和書が機械検索可能となり閲覧カード目録を全廃しました。それにともない4月からカード目録コーナー跡に、AV資料視聴コーナーを設置しました。現在コーナーの構成はビデオ・LDなどの視聴できるブースが8台。ビデオが2000本収納可能な書架を設置しました。後期には、5台ブースを増加し全部で13台となる予定です。このコーナーでは大学図書館所蔵資料の他、各研究室・短期大学図書館の所蔵している資料も視聴できます。またビデオ以外のAV資料（カセット・CD等）も事務室内にあります。機械検索またはカウンターに直接問い合わせ所蔵を確認の上、ご利用ください。

[短大図書館]

館内視聴専用ビデオ

＜オートチェンジャー編＞

貸出のできないビデオ約600本のうち、100本はオートチェンジャーといって、地下にある再生機の中に入っています。これらは各AVブースの手元パネルを操作して視聴します。

この春、この100本を大幅に入替えました。昨年度人気の高かった上位からクローズド・キャプションのものを除いた100本が選ばれました。この100本は、空のビデオケースが並べてありますので、みたい作品をそこから選び、カウンター係員に「オートチェンジャーのビデオ」と申し込んで下さい。又、各ブース備え付けの一覧表から探すこともできます。因みに「ミッション・インポッシブル」「レオン」「セブン」などが入っています。

※※※いんふお-め-しょん※※※

1999年7月～1999年12月

大学図書館

短期大学図書館

開館時間

月～金 9:00～18:00  
 土 9:00～16:00  
 試験期(7/1～7/26の月～金)  
 9:00～18:45  
 夏休み期間(7/30～9/18)  
 月～金 9:00～16:00 ※土曜閉館

休館日

書庫整理日:毎月末の火曜日  
 夏休み期間:毎週土曜日  
 8/7(土)～8/18(木)

試験期の貸出

7/1(木)～7/24(土) 3日間貸出

夏休み特別貸出

期 間:7/26(月)～9/10(金)  
 対象資料:図書のみ  
 冊 数:図書 無制限  
 返却日:9/24(金)

卒論作成者のための特別貸出

対 象:博士論文・修士論文作成者  
 卒業論文作成者(全ての学部)  
 受付期間:10/1(金)～11/11(木)  
 貸出期間:貸出日から30日間  
 対象資料:図書のみ  
 冊 数:図書 無制限

開館時間

月～金 9:00～17:30  
 土 9:00～16:00  
 試験期(6/7～7/24)  
 月～金 9:00～18:00  
 土 9:00～16:00

休館日

書庫整理日:毎月中旬の水曜日  
 夏休み期間:7/30(金)～9/18(土) 書庫建設工事  
 のため、全面休館の予定です。ご迷惑をおかけし  
 ますが、ご理解・ご協力をお願いします。

試験期の貸出

6/28(月)～7/22(木) 3日間貸出

夏休み特別貸出

期 間:7/23(金)～29(木)  
 冊 数:図書 無制限  
 AV資料 6巻  
 指定図書 3冊 7/27(火)～29(木)  
 返却日:9/24(金)

※体育祭のため10/20(木)は閉館します。

※詳細や変更は掲示にてお知らせします。

※常磐祭のため11/12(金)～15(月)は閉館します。

編 集 後 記

母校100周年の記念すべき時、新人?が編集委員に加わりました。下田先生は80ウン才まで現役であられましたからまだまだ若いです。「情報化社会」そのうち電子本なんて出て来ますか。でも本はやっぱり今のままが暖かみがあって、そういう本を探しに図書館に見えるみなさんに応えられる様に頑張ります。

Library Mate 第22号 1999年7月

発行所 実践女子大学図書館  
 東京都日野市大坂上4-1-1  
 URL:<http://www.jissen.ac.jp/library/>  
 実践女子短期大学図書館  
 東京都日野市神明1-13-1  
 URL:<http://www.jissen.ac.jp/library/jcol/>  
 発行責任者 板垣弘子

平成11年度図書委員会委員

- 板垣 弘子 (短大 国文学科)
- 土井 光祐 (大学 国文学科)
- 島 高行 (大学 英文学科)
- 片桐 頼継 (大学美学美術史学科)
- 後藤 英子 (大学 食生活科学科)
- 中澤 愈 (大学 生活環境学科)
- 蘆澤 宏生 (大学 生活文化学科)
- 高瀬 真理子 (短大 国文学科)
- 遠藤 光 (短大 英文学科)
- 奥野 和子 (短大 生活文化学科)
- 石井 紀子 (図書館学課程)